

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!

解放新聞 和歌山版

発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
藤本 哲史



ドッチボールで汗を流し、みんなで記念撮影

青年が新宮でフイールドワーク

2日目はドッチボール大会

4月1日、2日にかけて、第48回全高・第60回全青報告会・新宮フイールドワーク及びスポーツ交流会をひらき、7支部34人が参加した。

昨年、8月20日～21日にひらかれた全高、全青報告会を浮島隣保館でひらき、中上和年・支部長から「この新宮で全高・全青報告会、新宮フイールドワーク及びスポーツ交流会が開催されることを心からお祝い申し

上げるとともに、この地で学習や交流を深めてほしい」と地元あいさつがあつた。また、新宮市で発生した差別事件についてもふれ、悪質な差別事件を一日も早くなくすため、青年が力をあわせてとりくんで

ほしいと訴えた。つづいて、主催者を代表して松井資喜・青年部長は「県下の部落を知ってもらいたい。昨年の全高・全青の報告について、いろいろな意見をだし、フイールドワークで学習し、スポーツ交流会(ドッチボール)で交流を深めてほしい」とあいさつした。

全高・全青では、7支部7人から発表があつた。報告では「自分たちで企画する分科会に参加した。参加することは簡単だが、企画することの難しさを実感した」、「はじめて集会に参加した。友だちを誘って勉強しようと思った」、「狭山事



あいさつする
中上新宮支部長



松井県連青年部長から
「受け入れの準備等に感謝」



顕彰碑の前で説明する三鬼典親・
新宮支部書記長(右)と参加者



白熱したドッチボール大会

件入門では、勉強になった。時間をかけて勉強したい」など積極的な意見がだされた。

このあと、三鬼典親・新宮支部書記長から新宮の被差別部落の起源や地区の状況、大逆事件について説明があり、フイールドワークにむかった。このあと、三鬼典親・新宮支部書記長から新宮の被差別部落の起源や地区の状況、大逆事件について説明があり、フイールドワークにむかった。浮島隣保館を出発し、大逆事件の犠牲となった医師の大石誠之助、僧侶の高木顕明ほか4人を自由平等の先覚者として建てられた顕彰碑を見学。なかでも「ドクト

ル」と称された大石は、部落の人に治療費を請求しないなど、先駆的な活動をしてきたことが説明された。つぎに、新宮町(当時)の予算をあげるかに上回る売り上げをあげた浮島遊郭(1913年創業)の前を通過。熊野大権現速玉神社近辺にあつた三本杉遊郭が火事で焼失したため、浮島に移築されたもの。大逆事件の犠牲になった新宮グループによる廃娼運動も展開されたが1933年まで営業した。最後に、熊野大権現速玉大社・神倉神社にある「禁殺生穢悪」と刻まれた結果石を見学した。2日目は、朝から浮島隣保館でスポーツ交流会をひらき、各支部の高校生・青年が汗を流し、優勝をめざしてA、B、Cの3チームに分けて組み分けをしてドッチボールを計4試合おこなった。Aチームが見事に優勝した。高校生・青年がチームワークをしっかりと、交流を深めた。

頑健

春を感じる間もなく、世間は初夏の風情だ。衣替えは昔から6月と決まっていたはずだが、5月に入ると各地で真夏日を記録、一カ月前

倒しの気配である。歳時記と現実が合わなくなっている▼さて「共謀罪」だが、先日、東京・日比谷のオーブン・カフェでの知人らとの雑談で「コーヒー飲みながら政府の悪口ゆうてたら共同謀議になるなあ」「この後、霞が関を散歩すると下見にきたと逮捕されるかも」「でも双眼鏡もってなかつたら大丈夫(笑)」と大笑いしたが、現実には笑える話ではない。国会審議でも「山で黙ってキノコを採ったらテロの資金稼ぎになる」とかの話になっていった。複雑怪奇な法律の内容で、結局のところ「テロ行為」を決めるのは警察ということだ。これでは、戦前の特高警察のやり方の再現である▼テロ行為は、決して許されるものではない。しかし、事前の防止との名目で人権がないがしろにされて良いわけがないのだ。「日本版NSC」「安保法制」、そして「憲法改悪」への議論が進行している。「戦争ができる国」「国民の人権や自由の制限」、ことは強引にすすめられているのである。いうまでもなく、軍隊は最悪の暴力装置だし、警察の機能は国民の自由や人権を制限することにある▼今、まさに70数年前の再現であり、暑い夏の前倒しなのだ。